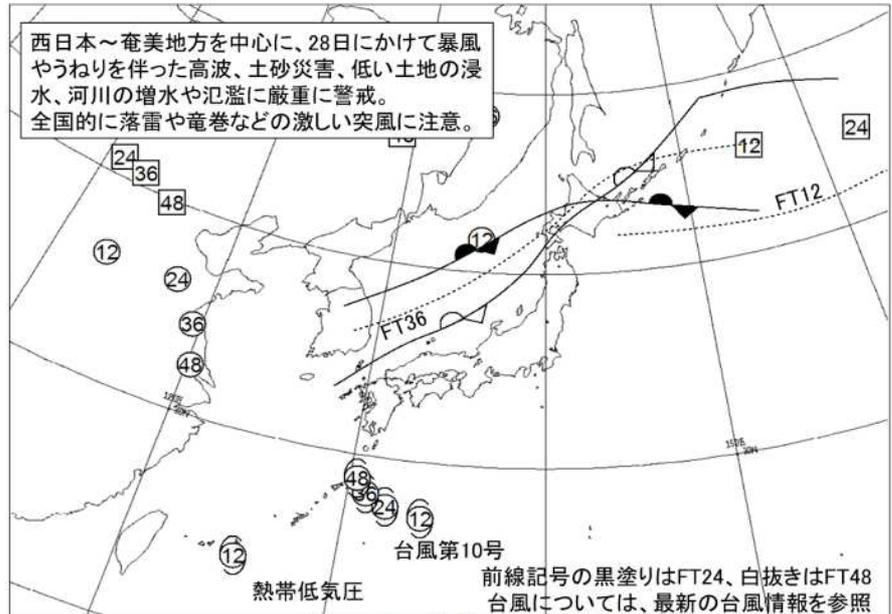


1. 実況上の着目点

- ① 強い台風第10号が日本の南を発達しながら北西進。
- ② 北日本付近はオホーツク海に中心をもつ高気圧と太平洋高気圧との間の気圧の谷となり、北日本から西日本にかけて、太平洋高気圧縁辺の下層暖湿気が流入。大気の状態が不安定となり、局地的に対流雲が発達。特に、栃木県では記録的短時間大雨情報を発表、線状降水帯が発生。26日明け方にかけて、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風は、発達しながら27日にかけて日本の南を北西に進み、西日本～奄美地方に接近。西日本～奄美地方では28日にかけて次第に風が強まり、非常に強い風が吹き、九州南部では猛烈な風の吹くおそれがある。また、波がうねりを伴って次第に高くなって大しけとなり、猛烈なしけとなる所がある。暴風やうねりを伴った高波に厳重に警戒。また、台風本体や台風東側の太平洋高気圧縁辺の下層暖湿気が流れ込む影響で、西日本～東日本の太平洋側を中心に大雨となり、特に南東～南向き斜面で降水量が多くなる所がある見込み。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。落雷や竜巻などの激しい突風に注意。台風が転向する27日から28日は台風の動きが遅くなるため、西日本太平洋側を中心に猛烈な風や波となる時間が長引いたり、雨量がかなり多くなるおそれがあることに留意。
- ② 500hPa5820m付近のトラフが26日夜には黄海に進み、日本海から千島近海にかけて500hPa5820m付近の強風軸に対応する前線が顕在化。日本海を次第に南下し、28日にかけて対馬近海から北海道にかけて停滞。前線に向かって、台風周辺や太平洋高気圧縁辺の下層暖湿気が流入するため、西・東日本日本海側や北日本でも大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。
- ③ 北日本を中心に、26日は太平洋高気圧縁辺の下層暖湿気と日射による昇温で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、降水分布はMSMやLFMも参考とするが、台風については最新の台風情報を参照。

- 4. 防災関連事項 [量的予報等]**
- ① 雨量(06時からの24時間)：東海150、近畿120、四国100mm。
 - ② 波浪(明日まで)：九州南部9、奄美8、四国・九州北部5、近畿・沖縄4、その他広く3m。
 - ③ 高潮(明日まで)：西日本～北日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第10号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。